

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 31 年 4 月 1 日改正
(平成 31 年 4 月 1 日適用)

① 第三者評価機関名

NPO 法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと

② 施設・事業所情報

名称：いちいの杜ハートフル	種別：障害者支援施設
代表者氏名：施設長 葉山 龍治	定員（利用人数）： 施設入所 40 名 生活介護 60 名（入所 40 名・通所 20 名） 短期入所 8 名

所在地：〒501-3822 岐阜県関市市平賀大知洞 566 番地 1

TEL : 0575-21-6600 ホームページ : swct.or.jp/swch.html

【施設・事業所の概要】

開設年月日 平成 16 年 7 月 13 日

経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 平成会

職員数	常勤職員： 31 名	非常勤職員 34 名
専門職員	サービス管理責任者 1 名	栄養士・管理栄養士 2 名
	看護職員 7 名	調理員 13 名
	生活支援員 34 名	事務職員 2 名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	全室個室 40 室 ショートステイ用 8 室	厨房、キッチン、理美容室、機能回復訓練室、医務室、浴室（一般浴槽・座位入浴槽・臥位入浴槽・シャワー入浴）、介護用トイレ、居室に洗面台併設、一部居室にトイレ併設、洗濯室、相談室、職員休憩室、床走行リフト（6 台）、天井固定式リフト（2 台）

③ 理念・基本方針（※転載）

基本理念 「医」はサイエンスにしてアートである。

アートとはすなわち「人間愛」である。

龍岡会グループではいつまでも住み慣れた街で自分らしく過ごしたいと願う多くの人のために、介護老人福祉施設をはじめ医療、看護、介護の様々なサービスを行っています。

やさしさの中から、笑いと誇りが生まれます。

ゲスト一人一人の思いを叶えることが、私たちの喜びです。
サービスの輪をご家族や生活する地域へ、途切れることなくつないでゆきます。

- 基本方針
- ・ Guest Oriented Care
　　それぞれのゲストにふさわしい十人十色のケア
 - ・ Hearty Care
　　心の癒される誠心誠意のケア
 - ・ After Care
　　いつでも信頼される生涯安心のケア

④ 施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・ 常に国や自治体の福祉政策に注視し、地域生活支援を担う事業所の一つとして、行政や関係機関と連携し、利用者のニーズに沿った支援に取組んでいる。
- ・ 半期毎に、課題の改善、質の向上、人材育成を目的に PDCA サイクルに基づいて目標管理を実施している。
- ・ 新人職員研修、基礎知識や課題に応じた勉強会の実施、職務や経験年数に応じた外部研修の受講など、職員個々のステップアップを図る機会を設け、質の高い人材育成に努めている。
- ・ 虐待防止、防災、感染症対策、安全衛生という各専門委員会が中心になり現状把握、課題分析、対策立案や研修実施を行い、利用者の安全安心な環境とサービス支援を提供している。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 7 年 6 月 6 日（契約日）～ 令和 7 年 12 月 15 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2 回目（前回令和 3 年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

＜事業運営における組織力＞

行事企画の起案書作成から実施までの一連の作業を担当職員に一任し、行事後の利用者と職員アンケートを次年度の基礎資料とするなど、職員の意欲と協働体制で組織力の強化につなげている。

安全衛生、虐待防止、防災、感染症対策等の各種委員会があり、それらの各委員会が中心となり、利用者の安心安全に直結するサービス支援に関わり、マニュアルの整備から状況把握、分析、改善、職員への知識習得や実践研修等に取組、常に最良のサービス提供に努めている。

＜施設長のリーダーシップ＞

施設が目指す姿、職員確保と定着および育成、地域の福祉ニーズ等の課題等に対し、具体的な取組を職員、利用者、家族等に示し、常に障がい者に関する福祉動向をリサーチし、関係機関や団体組織と積極的に関わり、これまで構築してきた良質なサービスと働く環境を維持している。

＜施設内の環境整備と職場環境＞

前回、高評価であった施設内の環境整備は、設備等の老朽化部分はあるものの、今回も5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の継続がしっかりと行われ、施設全体が清潔感ある空間が維持され、職員の環境整備への意識が浸透している。また、働き易い職場環境が整備されており、目標を持ち働く意欲へつながり、勤続年数の長い職員が多く、良好な人間関係が利用者に安定した生活環境を作り出している。

今回、役職者職員全員が自己評価作成に関わり、時間を掛け業務の見直し作業をおこない、事業運営に前向きな姿勢を評価したい。

◇改善を求められる点

＜具体的な課題の実践状況と成果が分かる中・長期計画の策定＞

中長期ビジョンに関する行動計画はあるが、中・長期計画の数値目標や具体的な成果等を明示し、財政状況や事業運営に関する現状を分析し、課題や成果など可視化し、ビジョンの実践につながる計画策定に期待したい。

＜評価結果の実施＞

前回、記録等の漏洩が発生した場合の対処法の取組が未整備であったが改善されたことが確認できた。一部評価受審結果で挙った具体的課題の未実施があり、継続して取組まれたい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

令和3年以来、4年ぶりの受審となりましたが、その間にコロナ禍を経て、福祉を取り巻く環境や社会全体に様々な変化が起こっており、そうした変化へ対応してきた現在の取り組みが適切であったかを確認することができました。

また、今回は役職職員全員で自己評価を実施したことで、より精度の高い振り返りが出来ただけでなく、職員間の認識や考え方の擦り合わせにもつながりました。

前回受審時から継続してきたこと、改善出来たこと、一方で、更に改善の余地があることなど、客観的な視点で評価をしていただき、改めて、自施設の強みと伸びしろを知ることができました。

今回の評価結果を踏まえ、今後も地域社会の中で必要とされる社会資源として、より良い施設運営に努めて参ります。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。